

知立市議会の各常任委員会から 市長へ政策提言を行いました

知立市議会では、常任委員会の機能強化を図るため、委員会のあり方について議会改革特別委員会で協議を重ねた結果、令和3年から各常任委員会において所管する事項から年間テーマを設定し、調査・研究を行い、委員会として政策提言書にまとめ市長に提出しています。今回、各常任委員会から提出された政策提言は、以下のとおりです。

企画文教委員会「多文化共生のまちづくりの実現に向けた施策推進を」

知立市の外国人集住率は県内でも高く多文化共生のまちづくりの推進が重要度を増している。しかし多文化共生に対する認知度、理解度は低く、相互理解と共生のための全市的な取り組みが不足している。



政策提言

- 1 「もやいこハウス」を多文化共生のためのワンストップセンターとして位置づける。
- 2 転入外国人のためのオリエンテーションツールの作成をし手続き負担の軽減を。
- 3 外国人集住都市会議やJICAなどの全国的なネットワークを持つ組織体と連携し、施策の推移を図ること。
- 4 市内の様々なイベントへの、外国人事業者の参加しやすい環境づくりを。

市民福祉委員会「手話通訳者の育成に向けた取り組みを」



手話言語条例の制定により、市民が手話を正しく理解し、ろう者が必要な情報を取得し、十分なコミュニケーションを図るなどの環境整備は進められている。しかし、知立市の聴覚障がい者は150人。内手話を言語とする人は83人であるのに対して、手話通訳者は現在6名でその多くの方が50歳以上。今後を担う人材の育成が進んでいない。

政策提言

- 1 手話通訳者の確保・養成に向け、受講費及び検定料の助成を推進すること。
- 2 手話を用いた情報発信のさらなる充実に取り組むこと。
- 3 手話に対する理解促進の機会づくりと手話を見近に感じられる手話カフェの設置を。
- 4 知立市第7期障がい者福祉計画、及び第3期障がい児福祉計画に上記1～3を盛り込むこと。

建設水道委員会「知立駅付近連続立体交差事業の高架下利用に関する政策提言」

知立駅周辺整備事業は終盤を迎える。特に鉄道高架下利用については関心が高く優先的な施策展開が求められる。しかし、現在の駅前には昼間の人口が少なく経済的、文化的、また市民の活動拠点としても魅力がないのが現状。昼間人口の増加が大きな課題。



政策提言

- 1 高架下に、災害時支援機能を合わせ持つコンベンション施設を設置すること。
- 2 施設を管理・運営する施設管理団体を設立すること。
- 3 鉄道事業者と協力して、高度利用可能な自転車駐輪場を設置すること。